



前列左から川村文乃さん、勝山真弥君、伊藤美保子さん、後列左から鈴木潮美さん、昆咲樹さん、昆澪子さん、熊谷渚さん

入賞者7人に賞状授与・伝達

全国納税貯蓄組合連合会が募集した中学生の「税についての作文」の賞状授与・伝達式が11月16日、役場で行われました。同作文は税の仕組みや役割を正しく理解してもらおうと実施されているもので、県内から3,361編、全国では432,747編の応募がありました。式では一人一人に賞状と副賞が贈られ、受賞者を代表して川村文乃さんが受賞作「税金が支えているものを発見!」を朗読しました。受賞した皆さんは次のとおりです。

◆宮古税務署長賞

川村文乃（豊間根中3年）

◆東北地区納税貯蓄組合連合会長賞

勝山真弥（豊間根中3年）

伊藤美保子（山田中1年）

◆岩手県納税貯蓄組合連合会長賞

鈴木潮美（豊間根中3年）

昆 咲樹（山田中3年）

◆宮古・下閉伊地区納税貯蓄組合連合会長賞

昆 澪子（山田中3年）

熊谷 渚（山田中3年）

《敬称略》

イラスト



町の歴史をよく知ることができました。明治、大正時代の写真が多く残っていることにも驚きました。蓬萊橋を馬に乗って渡っている写真がとても印象的でした。時代を感じますね。

匿名希望（飯岡・32歳）

亡き母をしのぶ十二月の風

私の母はコタツの片隅でテレビを見て楽しんでいました。足腰が衰えたのか、立ち座りの際はコタツの台を支えにするようになり、時には台がキュッと鳴ることもあり、注意をしたり叱ったりもしました。それが母から受け継

いだのように私が毎日その繰り返しです。思えば寒い日も朝早くから家事、その他いろいろよくやってくれた。優しい言葉、感謝の言葉も述べたこともない。その母も二十三年前、八十七歳で天国に旅立った。かぜもひいたことのない丈夫な体。今日はそんな母がしのばれる。

岡市健吾（飯岡・?歳）

貴重な山田の自然を大切に

山田を離れて十年くらい経ちます。十一月一日号の広報やまだの山田湾を見ながら、あらためてきれいな所で育った私は幸

せだなと思いました。豊間根で育ちましたが自然がたくさんあり、今思えばある意味ぜいたくな環境だったと思います。小学一年生の子と主人と名古屋で暮らしていますが、名古屋も素晴らしい所です。しかし、残念なこと山田のように自然があまりありません。海も工業地帯で、きれいな海とは言えないのが正直なところ。山田町が発展していくのは大変うれしいことですが、貴重な自然ときれいな海は大事にしてほしいです。

笹ノ内真奈美（愛知県阿久比町・?歳）

みんなのスペース



すずき ゆうと くん
(大沢保育園・6歳)

ぼくのゆめ

大きくなったらサッカー選手になって、外国のチームでプレーしてみたい。

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

街路樹と町長コラムに疑問

駅前通りの街路樹については、かつて広報でも指摘されていたが、イロハモミジの枝の剪定がどうにかならないのか。このモミジに似つかわしくない整枝で、とても見るに耐えられません。海岸に向かって左側の通りの多くが欠けています。枯死、あるいは意図的なものか、その辺も調べ、県振興局と相談してぜひ補ってほしい。できればこの街路樹を海岸通りまで延長してほしい。そうすればきれいな並木になると思います。

広報紙の中の「町長室から」の掲載をやめてほしい。そもそもこの記事のねらいは何か。ただ自分をアピールしているだけのように思われる。そういうことより町民の声（要望、願い、提言など）を載せるスペースの方が「町の活性化」(人々の意識向上)になると思うが、当人の答えをお聞きしたいと思います。

東海林和彦（山田・?歳）

【回答・地域整備課】

駅前通り（県道陸中山田停車場線）の街路樹「イロハモミジ」は、平成四年に開催された三陸・海の博覧会に先立ち、県が山田駅前の環境整備の一環として植樹したものです。ご意見について宮古地方振興局土木部に問い合わせたところ、イロハモミジの樹木剪定は十一月十日に実施済みとのこと。樹木の枯死あるいは意図的な除伐の調査については、平成十四年二月一日号の広報に掲載しているように、当時、沿道商店街の方から「ハネ虫の発生による営業への支障が」「樹木の成長に伴い、根の部分が隆起し安全な通行の妨げに」といった苦情があり、当初植え込んだ三十本のうち九本を意図的に間引きしたものです。以上の経緯などから、ご意見の駅前通りや海岸通りの街路樹の補充、植え替えについては現時点では容易に出来るものではないと判断しております。

ここ山田駅前の道路は山田町の玄関口でもあり、今後、宮古地方振興局土木部には周辺の状況および景観に配慮した適切な維持管理を要望していきたいと考えております。

【回答・町長】

「町長室から」の掲載についてお答えします。本欄は、平成十二年九月から町長のコラムとして掲載されているものです。そのねらいを要約すると、▼広報記事だけでは伝えきれない出来事などを私なりにすくい取ってお伝えすること▼その時々感じた私の思いも知っていたきたこと▼いろいろな機会に個別に町民の方からご質問があり、どうしても皆さんにお知らせしたい共通する課題についてお伝えすること——で、時には読者の皆さまの息抜きにと、私の感じた自然の移ろいなども書いております。

町民の声欄の充実をご提言されておりますが、「みんなのスペース」欄を活用いただきたいと思っております。広報に首長のコラム欄があるのは異例のことではなく、むしろ親しまれる広報づくりの視点からは必要と感じております。なお、平成十六年三月に実施した町政モニターアンケートでは「広報紙の中で関心を持って読む記事は？」との質問に対して、十七項目中で六番目の結果となっております。ご理解をお願い致します。

時代を感じる蓬萊橋の写真

広報やまだの合併五十周年記念企画は読み応えがあり、山田

盛岡市の昆野さんが町に100万円を寄付

母が生前お世話になったお礼にと盛岡市の昆野武彦さん(七〇)が、町に百万円を寄付してくれました。昆野さんは「母は山田にずっと住み、今年十月、百一歳の誕生日を前に亡くなりましたが、これまで山田町に大変お世話になりました。町の発展のために使っていただければ故人も喜んでくれると思います」と述べられました。町ではこのご厚志を無にすることなく、大切に使用させていただきます。